

第 15 回福島県双葉郡教育復興ビジョン推進協議会議事概要

I. 開催日時および場所

日時：2018 年（平成 30 年）1 月 12 日（金）14:00～16:00

場所：郡山中央公民館 第 6・7 講義室（郡山市麓山一丁目 8-4）

II. 委員

別紙名簿の通り

III. 資料

■ 資料（予定）

- 議事次第・席次表
- 資料 1 福島県双葉郡教育復興ビジョン推進協議会委員名簿（2018/1/12 版）
- 資料 2 福島県双葉郡教育復興ビジョン推進協議会（第 14 回）議事概要
- 資料 3-1 取組実施状況
- 資料 3-2 取組実施状況 - 新聞等掲載記事
- 資料 4 広報誌「ふたばの教育」Vol. 8 2018 年春号ドラフト
- 資料 5 H30 年度ビジョン実施計画（案）（2018/1/12 版）
- 資料 6 H30 年度ビジョン推進体制・取組一覧（案）
- 資料 7 福島県双葉郡教育復興ビジョン推進計画書（H28. 3. 29 版）
- 資料 8-1 ふたば未来学園中高一貫教育最終まとめ
- 資料 8-2 ふたば未来学園中高一貫教育最終まとめ 資料編
- 資料 8-3 ふたば未来学園中高一貫教育及び中高接続のイメージ
- 資料 12-1 ふたば未来学園高等学校開校 3 年間における成果と課題
- 資料 12-2 新聞等掲載記事
- 資料 12-3 一期生進路決定状況（180112 現在）
- 資料 13-1 委員情報共有 1 文科省支援策（初等中等教育局）
- 資料 13-2 委員情報共有 1 文科省支援策（学校再開支援関係）（初等中等教育局）
- 資料 14 委員情報共有 2 文科省 被災者支援交付金（生涯学習政策局）
- 資料 15 委員情報共有 3 復興庁 ICT 教育コーディネーターモデル実証事業の開催について

IV. 議事内容

1. 開会

1) 開会挨拶（武内敏英 大熊町教育委員会教育長）

- 本協議会は、平成 25 年 7 月に策定の双葉郡教育復興ビジョンを受け、その具現化を目的として同年 11 月に発足。28 年度には 3 ヶ年の推進計画書を策定し、その具現化を図っている
- 郡内では依然として 6 校が休校、就園・就学率もわずか 11%。依然として双葉郡の教育

には重要な課題がたくさん横たわっている。原発災害の復興には長い時間が必要。今後もこの協議会の継続が必要だと考える

2) 自己紹介

2. 前回議事概要【資料2】確認

- (全会) 承認

3. 議事

1) 今年度の各取組実施状況について【資料3】【資料4】

- 「ふるさと創造学サミット」、「絆づくり交流会」、「中高生交流会」は今年度も各校の先生方が中心の実行委員会体制での実施で、現場主体の企画運営が更に進んだ。「ふたば生徒会連合」が正式に発足し、被災地支援のための募金活動等の具体的な活動ができたのも今年度の特徴
- 双葉郡地域学校協働本部では墨田区や横浜市のサポートも受けながら取組を進めている。今後も郡内の学校教育活動の更なる充実化につなげたい
- ICT活用・広報委員が町村を越えた協働、情報共有をサポート。全体的なICTリテラシーの向上や活用推進につながった

2) 各町村教育委員会の現状と課題

- 【資料11】(檜葉町) 今年度より檜葉町で学校再開。学校・地域・行政が一体となって日本一の教育を提供することを目標に、少人数教育のメリットを生かした教育を進めていきたい
- (富岡町) 4月からの学校再開に向けて準備を進めている。少人数だからこそその成果が上がっている一方で、少人数のデメリットをカバーしていくためにも、ビジョンの交流会や合同授業等の仕組みが今度も続くよう支援いただきたい
- (浪江町) 30年度いっぱい小学校4校と中学校2校の臨時休業の措置はいったん区切り、休校にするかどうかについて今後の状況の中で判断していく予定。子供たちの教育に少しでもマイナスがないようにするため、これまでのビジョンの事業の成果を大事にしながら一緒にやっていきたい
- (川内村) 現在では48%の子供たちが戻っている。村での教育の質をいかに担保していくかが課題。小中一貫教育を採用し、大人も学べるような学校をつくっていきたい
- (広野町) 67%の子供たちが戻っているが、戻ってくる人数は年々減っている。ふたば未来の併設中学が開校することもあり、広野小中学校魅力化検討委員会を設置した。今後もスクールバスや加配教員等の支援継続をお願いしたい
- (葛尾村) 全体で20%前後の帰村率だが、子供が非常に少ない。校内での交流はもちろんだが、郡内の小中学校や村内の異世代の方々との交流を大切にしていきたい。村の方々も4月の学校再開を楽しみにしている
- (双葉町) 少しずつ人数が増えているが、特別支援学級のな子供たちが若干増えてきてい

るので加配をお願いしたい。30年度よりいわき市の協力で学校給食を開始できることとなった

- (大熊町) 5年後には除染が終わり、一部区域の避難指示が解除できるのではないかとはい見通しが出た。5年後を目安に町内大川原地区に学校を立ち上げる予定。会津の学校は5年間は継続する。また、特別支援を必要とする子供が増えているので手厚い教育が必要

3) 平成30年度行事計画案検討【資料5】【資料6】

- これまでの振り返りを活かし、より改善・充実したものが展開できるよう、各取組を継続する
- 次年度の推進体制に「ふたば生徒会連合」を正式に追加する

4) 第2次推進計画書策定について【資料7】

- 31年度からの推進計画書を新たに策定する必要がある。30年度の12月の第17回会議までには教育長会が中心となって協議し、原案を提示したい

5) 福島県立ふたば未来学園高校・併設中学校について

(1) ふたば未来学園高校活動報告【資料12-1, 2, 3】

- 3年間の成果と課題を考えると、①育成する資質・能力の明確化、②資質・能力を育めるような授業の創造、③総合と教科の往還による資質・能力の育成が重要だと感じる。今後もルーブリックを活用し、質の高い授業の創造、現実社会の色々な課題に取り組む探究学習に取り組んでいきたい
- 現時点での1期生進路決定状況として、4年生大学に計47名が合格した。福島大学等の国公立大学5名を含む

(2) 「ふたば未来学園中高一貫教育最終まとめ」報告【資料8-1, 2, 3】

- アクティブ・ラーニングの視点による質の高い学びによって思考力や人間性を培っていく主体的・対話的で深い学びを基盤とし、グローバル教育、シティズンシップ教育を関連付けながら、地域や世界で活躍するリーダー育成をしていきたい
- 併設中学校の募集定員は60名を予定。双葉郡枠を含む一般選抜とバドミントンとレスリングのスポーツ選抜を実施

7) その他

(1) 委員からの情報共有

- 【資料13-1, 2】(下間委員) 教職員加配やスクールカウンセラーの継続配置については今後も要望に沿った対応ができるよう取り組んでいきたい。ビジョンの推進についても支援は継続するので関係機関と連携しながら持続的に取り組める体制を整えていただきたい
- 【資料14】(神山委員) 地域学校協働本部や放課後子供教室、体験活動等への支援を継続する。イノベーション・コースト構想を進めていく上では、復興に資するような各地の大学の優れた取組、研究プロジェクト活動の支援に必要な経費も計上しているので活用いただきたい
- 【資料15】(千葉参事官) ICT教育コーディネーター事業について、成果の実証事業の開催を予定している。内容としては複数の学校をつないでの合同授業やテレビ会議等を検討

している

- (秋元委員) 学校の施設環境整備改善事業には大枠の中で帰還環境整備の縛りがあるように感じる。新たな事業展開にも利用できるよう枠を広げるか、新制度を設計するか、検討いただきたい
 - (南郷副校長) ふるさと創造学に取り組む子供たちと地域復興に取り組む大人が日常の出会う場として、建設中の新校舎内に部屋ができる予定。どのような利用が可能か、地域の人たちと一緒に考えて具現化していくための熟議の場を設けたく、今後相談させていただきたい
- (2) 今後の協議会開催予定
- 次年度も2回(4月下旬～5月中旬、12月下旬から1月上旬)開催を予定

4. 閉会

以上